



現存する最古の地球儀「マルチン・ベハイムの地球儀」(レプリカ) ～地図と測量の科学館の展示物より～

CONTENTS

1. 国土地理院長交代	2
2. 令和7年国土地理院表彰式を実施	3
3. 「測量の日」関連行事を実施	
●札幌市内の小学校で測量体験学習会を開催	5
●岐阜県図書館主催の「夏休み小学生わくわく地図教室」に参加	6
4. 「自然災害伝承碑」ウェブ地図「地理院地図」での公開数	7
5. 7月の報道発表・9月の主な行事予定	7

8月1日付けで山本^{やまもと さとし} 悟司国土地理院長が退任し、同日付けで河瀬^{かわせ かずしげ} 和重参事官が新たに院長に就任しました。

【就任のあいさつ】

本日付で国土地理院長を拝命した河瀬です。これからどうぞよろしくお願いいたします。本日から国土地理院の舵取りを任される身となって、非常に身が引き締まる思いです。

現在、国土交通省においては、国土交通省CX（組織変革）というプロジェクトが進められようとしているところです。その中の一つに、MVV（ミッション、ビジョン、バリュー）というものを策定するという項目があります。国土地理院では従前から「国土を測る・描く・守る・伝える」ことの四本柱と「技術・広報・教育」という非常に分かりやすい標語が存在しています。これはMVVでいうと、バリュー（具体的な行動指針、行動基準）に相当するものと思いますが、そのほかのミッションや組織のビジョンというものを策定するということは、非常に難しい課題であると認識しています。

そうした中で、当院のミッションの素案というものを考えてみました。それは三つありまして、一つ目は国家要素の一つである我が国の国土の地政学的な完全掌握、そして当該成果の継続的な定着保存というものです。二つ目は、いわゆるPNT、位置の決定、時刻情報の取得、そしてこれらに関連付けられた移動経路の情報取得を意味しますが、このPNTに係る技術基準の維持管理というものです。そして三つ目は、国民の経済社会活動や安全安心に資する国土情報基盤の整備・更新、そして共有というものです。

いま示したミッションの素案と「測る・描く・守る・伝える」及び「技術・広報・教育」を基にして、当院としてのMVVを策定していきたいと考えております。

MVVはあくまでも手段ですが、実際の職務の遂行のためには、職員の皆さん一人一人の健康とご家族の健康が非常に重要であると考えています。ぜひとも職務の遂行に当たっては、ご健康に留意されることをお願いしたいと思います。

一方で国家公務員に対する国民からの見る目というものは依然として厳しいものがあります。職務遂行時のみならず、プライベートな時間においても、国家公務員としての綱紀の保持やコンプライアンスの遵守といった点に気を配っていただきたいと思います。

最後になりますが、職員の皆さんの処遇が少しでも良くなるように、そして国土地理院という組織のステータスが少しでも上がるように力を尽くしていきたいと思っております。

ぜひとも皆様のご理解、ご支援をお願いしまして、私の就任の挨拶とさせていただきます。



国土地理院長 河瀬 和重

プロフィール

昭和42年生 兵庫県出身

主な経歴

平成5年4月 建設省入省

平成30年10月 国土地理院測地観測センター長

令和3年4月 国土地理院基本図情報部長

令和4年6月 国土地理院企画部長

令和6年7月 国土地理院参事官

令和7年8月 国土地理院長

（総務部）

令和7年国土地理院表彰式を実施

7月16日に令和7年国土地理院表彰式を執り行いました。

式典では、測量事業の推進に功績のあった方、令和6年度に完了した国土地理院発注の測量業務において特に優れた成績を収めた測量業務の実施者及び技術者に対して、表彰状を授与しました。

また、長年、験潮場の看視者として保守及び測定業務に精励した方に対し、国土地理院長から感謝状を授与しました。

受賞者は、次の方々です。(敬称略)

国土地理院長表彰

◆測量事業関係功労者(3者)

功労者名	功績概要
あさひな まさろう 朝比奈 政 郎	多年にわたり測手※1として測量業務に精励し、測量事業の推進に貢献した。
なかじま むねはる 中 島 宗 治	多年にわたり測手※1として測量業務に精励し、測量事業の推進に貢献した。
旭測量設計 株式会社	多年にわたり験潮場の看視者として保守及び測定業務に精励し、測量事業の推進に貢献した。

※1 測手＝測量作業の際、測量に直接関連のある補助的業務に従事する者

◆優良業務(5件)

優良業務名	事業者名
防災対策地域水準測量(有明・八女地区)	株式会社 新日
河川事業に伴う水準測量(新潟地区・上越地区)	国際測地 株式会社
空中写真撮影(君津・市原地区)	株式会社 ウエスコ
能登半島地震に係る航空レーザ測量業務(能登北部地区)	株式会社 パスコ
能登半島地震に係る航空レーザ測量業務(能登中部地区)	中日本航空 株式会社

◆優良技術者(5名)

技術者名	事業者名
みやじ たかし 宮路 隆志(主任技術者)	株式会社 新日
うてな たつき 臺 達樹(主任技術者)	国際測地 株式会社
あかい しんや 赤井 晋也(主任技術者)	株式会社 ウエスコ
たなか せいや 田中 星 矢(主任技術者)	中日本航空 株式会社
いしい しげる 石井 茂(主任技術者)	株式会社 ナカノアイシステム

国土地理院長感謝状

◆験潮場看視者(1名)

功労者名	功績概要
ただ ひろまさ 多田 宏 政	多年にわたり験潮場の看視者として保守及び測定業務に精励し、測量事業の推進に貢献した。



国土地理院長表彰・感謝状受賞者

(総務部・企画部)

「測量の日」関連行事を実施

●札幌市内の小学校で測量体験学習会を開催

北海道地方測量部では、「測量の日」^{さつそんわかりきかい}関連行事の一環として、札幌若力会と協力し、7月16日に札幌市立稲積小学校(北海道札幌市手稲区)において、測量体験学習会を開催しました。

測量体験学習会は、北海道地方測量部と札幌地区測量設計協会の若手メンバーからなる札幌若力会(共催)が、地図と測量に関する知識と理解の向上を図ることを目的に平成8年から札幌市内の小学校で実施しているもので、今回で30校目となります。

今年は、札幌市立稲積小学校で開催し、6年生の54名が参加しました。

◆教室内学習会

最初に、視聴覚室で教室内学習会を実施しました。北海道地方測量部から「地図と測量のお話」として、現在は人工衛星を使って基準点の位置を測っていることや、ウェブ地図「地理院地図」を使うと小学校周辺の今と昔の様子を簡単に比較できることなどについて説明を行いました。

続いて、札幌若力会から北海道の測量にゆかりのある人物として、松浦武四郎と伊能忠敬を紹介しました。児童たちは、地図を作った偉人の話を、興味深く聞いていました。



教室内学習会の様子

◆測量体験

測量体験は、雨天のため、体育館において「20mを測ってみよう」と題し、児童が歩測で20mの距離を予測、その後、トータルステーションで計測した距離と比較し、自分の1歩が何cmかを知ってもらうことができました。

次に、ドローンによる写真撮影のデモンストレー

ションを行い、ドローンも測量に役立っていることを紹介しました。

児童たちには、トータルステーションを用いた距離測定や、間近でドローン飛行の様子を見るなど、普段できない体験となりました。



距離計測の様子

◆表彰式・記念撮影

測量体験の後は、体育館で表彰式を行いました。歩測で20mに近い記録を出した児童(成績上位3名)に表彰状を贈呈しました。

最後に、参加者全員でドローンによる記念撮影を行い、測量体験学習会を終了しました。



参加者全員で記念撮影

北海道地方測量部では、今後も測量業界などの関係者と連携して、「地図と測量」の重要性を「伝える」取組を発展させていきたいと考えています。

今回の体験学習会が児童たちの「地図と測量」への興味を高めるとともに、将来の職業選択のきっかけの一つになれば幸いです。

(北海道地方測量部)

「測量の日」関連行事を実施

●岐阜県図書館主催の「夏休み小学生わくわく地図教室」に参加

7月30日及び31日、岐阜県図書館で小学生を対象とした「夏休み小学生わくわく地図教室」が開催されました。中部地方測量部からは4名の職員が講師として参加し、「地図ができるまで」の講演等を行いました。

この「夏休み小学生わくわく地図教室」は、岐阜県図書館が平成7年から実施している地図教室で、中部地方測量部は令和元年から講師として参加しています。



講演「地図ができるまで」の様子

1日目は、地図の勉強をこれから始める小学1・2年生(22名)を対象に「地図ができるまで」のお話や地図記号クイズ、2万5千分1地形図を使った地図記号の読み取り体験、展示した様々な地形図や立体地図を体験してもらいました。



地形が浮き出て見えるかな？(立体地図を体験)

地図記号の読み取りや立体地図の体験では熱心に取り組む様子が見られました。また、地図記号の質問も多くあり、地図に親しむ有意義な時間となりました。

2日目は、地図記号を既に勉強している小学3か

ら6年生(25名)を対象に「地図ができるまで」の講話、地図記号クイズ、立体地図の体験や2万5千分1地形図を使った等高線の読み取り体験を行いました。



この地図記号を見たことあるかな？(地図記号クイズ)

特に地図記号クイズや等高線の読み取り体験では積極的に取り組む様子が見られました。また、地図記号の由来や地形図の特徴、等高線から作成した断面図の解説では、参加者(児童とその保護者)はとても興味深く話を聞いていました。



等高線から地形の特徴がわかるかな？

帰り際に多くの参加者から「とても楽しかった」、「来年もまた参加したい」と感想をいただき、参加した職員にとっては大きな励みとなりました。

中部地方測量部はこれからも、測量と地図に関する普及啓発に積極的に取り組んでまいります。

(中部地方測量部)

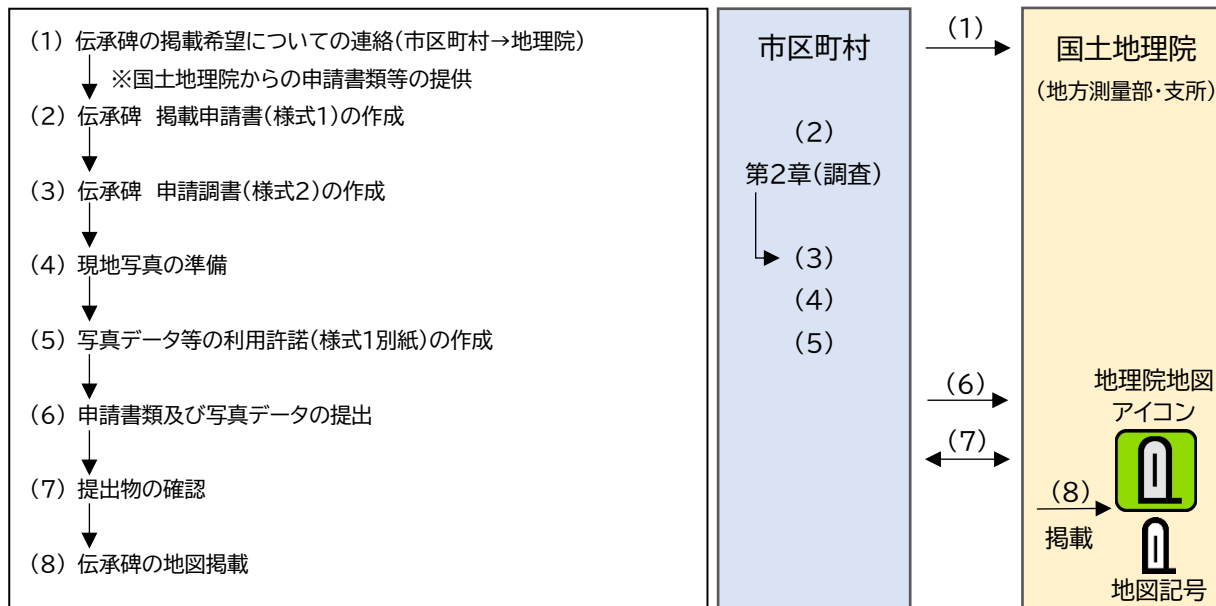
○「自然災害伝承碑」ウェブ地図「地理院地図」での公開数

令和7年8月25日現在

47	都道府県	664	市区町村	2377	基
----	------	-----	------	------	---

詳細については、自然災害伝承碑のページ(<https://www.gsi.go.jp/bousaichiri/denshouhi>)をご覧ください。
[市区町村の担当者の皆様へ]自然災害伝承碑に関する当院への情報提供にご協力をお願いいたします。

自然災害伝承碑の申請の流れ



様式や手続きの詳細は「自然災害伝承碑に係る調査業務 実施の手引き 第6版(令和6年3月)」
(https://www.gsi.go.jp/bousaichiri/denshouhi_info.html)をご覧ください。

○7月の報道発表

発表日	件名	担当部署
1日	企画展「地図と測量に見る戦災からの復興」 「つくばエクスプレス開業20年」を同時開催	総務部
8日	令和7年測量士試験の合格者を発表	総務部 企画部
8日	令和7年6月の地殻変動	測地部 測地観測センター 地理地殻活動研究センター
15日	トカラ列島で地殻変動観測を強化 ～臨時GNSS連続観測点を設置～	測地観測センター
16日	測量事業関係功労者等を表彰 ～測量技術の発展と地図の普及啓発のために～	総務部 企画部
25日	夏休みの課題に取り組む児童・生徒の心強い味方 ～「地理教育の道工具箱」がサポートします！～	応用地理部

報道の内容は、国土地理院ホームページ>2025年 報道発表資料一覧

(<https://www.gsi.go.jp/WNEW/PRESS-RELEASE/press-2025.html>)をご覧ください。

○9月の主な行事予定

月日	行事
7/15～9/21	地図と測量の科学館 企画展「地図と測量に見る戦災からの復興」 「つくばエクスプレス開業20年 ー地図・写真から見る沿線の変化ー」

国土地理院広報は、
国土地理院ホームページ>広報誌>国土地理院広報
(<https://www.gsi.go.jp/WNEW/koohou/>)に掲載しています。

発行 国土交通省国土地理院

Geospatial Information Authority of Japan

〒305-0811 茨城県つくば市北郷1番

TEL 029-864-6255

FAX 029-864-6441



連絡先: 総務部広報広聴室

国土地理院ホームページ

<https://www.gsi.go.jp/>